

小石を撒いて江戸前アサリを復活できるか？

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産研究・教育機構
	公開日: 2024-07-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 佐藤, 允昭, 南部, 亮元, 井上, 誠章, 桑原, 久実
URL	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009201

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



小石を撒いて江戸前アサリを復活できるか？

水産土木工学部

研究の背景・目的

近年、日本全国でアサリの漁獲量が減少しています。アサリ資源の厳しい現状に対し、漁場に小石（碎石）を撒くことで、アサリ稚貝の定着が促進され、漁獲につながる事例が三重県で報告されています。千葉県船橋市のアサリ漁場では、着底した稚貝が波浪で岸へ移動し、浜に打ち上げられ死亡する事例が報告されています。アサリの移動を、漁場に碎石を敷設することで抑制し、江戸前のアサリ資源復活に取り組んでいます（図 1）。

研究成果

事前調査では、アサリは100～2,120 個体/m²の密度でした（図 2）。稚貝が多くいる一方で、成貝はほとんど見られませんでした。引き続き、アサリの分布調査を行い、碎石設置の効果を検証していきます。

波及効果

三重県だけでなく、船橋地先でも碎石による漁場造成が、アサリ資源の増大に効果が認められれば、資源の減少が報告されている各地に広めていくことができます。



図 1 碎石(上)と漁業者による碎石散布(下)



図 2 事前調査で採集されたアサリ稚貝

（本研究は委託事業「船橋地区における碎石造成によるアサリの定着促進の検証調査」の一環として実施しました。）

（生物環境グループ：佐藤允昭・南部亮元、水産基盤グループ：井上誠章、
水産土木工学部：桑原久実）